

第3章

全体構想

全体構想は、都市の骨格となる全市レベルの将来像を示すとともに、これを実現するための主要な手法である都市計画を定める際の総合的な指針となるものです。

全体構想では、都市づくりの「基本理念」や「基本方向」、「将来の都市構造」、及び市全体の「部門別の基本的な方針」で構成しています。



1 都市づくりの基本理念と基本方向

第9次福岡市基本計画では、「生活の質の向上」と「都市の成長」の好循環を創り出すことを都市経営の基本戦略と位置づけ、都市的魅力と豊かな自然環境が調和し、拠点の特性に応じて多様な都市機能が集積し、さらに交通基盤のネットワークにより移動の円滑性が確保された「福岡型のコンパクトな都市」に向けて、まちづくりを進めることとしています。

ここでは、福岡市における都市の現状や社会情勢の変化、今後の都市づくりの課題を踏まえて、都市づくりの3つの「基本理念」と、6つの「基本方向」を示します。

豊かな自然環境と充実した都市機能を備えたコンパクトで持続可能な都市をめざして

基本理念1 交流を育み、都市の成長を図る都市づくり

交流

基本方向1 九州・アジアの交流拠点都市の形成

活力

基本方向2 都市の活力を牽引する都心部の機能強化

基本理念2 地域の特性を生かし、生活の質を高める都市づくり

活用

基本方向3 都市基盤を活用した地域の核となる拠点機能の強化

快適

基本方向4 高齢者をはじめ、すべての人が快適で住みやすい日常生活圏の形成

基本理念3 自然環境と共生し、安全・安心な暮らしができる都市づくり

環境

基本方向5 環境負荷の少ない都市空間の形成

安全

基本方向6 災害に強く安全な都市空間の形成

■ 第9次福岡市基本計画（平成24年12月策定）

○空間構成目標

空間構成目標は、市民生活や都市活動の場となる都市空間を、どのように形成し、どのように利用する空間とするかを目標として示したものです。都市空間の形成にあたっては、長期の視点に立って、まちづくりを進める必要があり、本計画の目標年次である平成34年度までの今後10年間、この目標に向かってまちづくりを進めていきます。

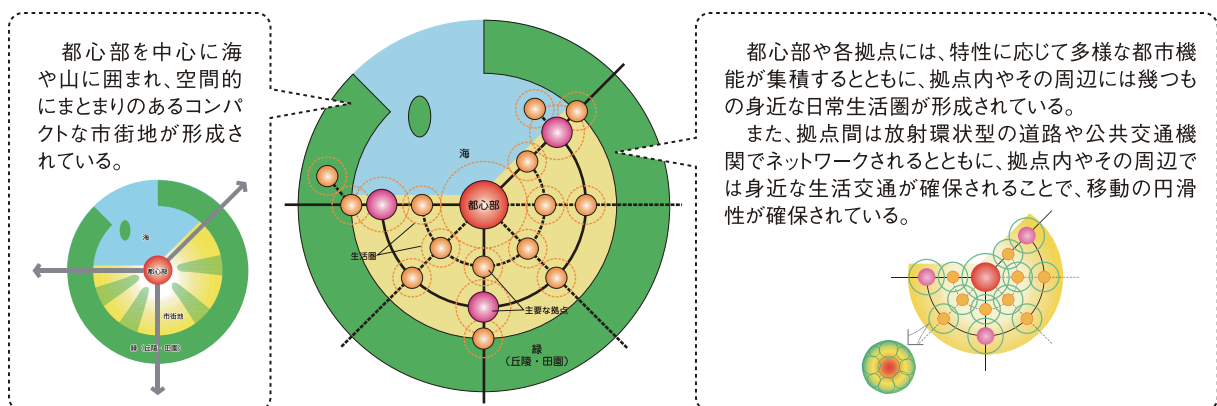
【現状と課題】

- 福岡市では、都心部を中心にY字形に伸びる広域的な都市軸に沿って都市機能が集積してきましたが、福岡都市高速道路や平成外環通りなどの幹線道路網や地下鉄などの鉄道網の整備により、放射環状型の都市軸が形成され、都市の骨格がより明確になってきました。
- 陸海空の広域交通ネットワークや都市機能の充実により、ビジネスや観光などによる交流が活発化し、九州・日本各地はもとより、アジア・世界へ向けた国際交流軸が形成されつつあります。
- 経済社会がグローバル化し、国や地域を越えて経済活動が活発に行われるようになると、国際的に魅力のある都市に人や投資が集中するようになり、国際競争力のある都市づくりが必要になっています。
- 一方、高齢化が進む中、身近なまちの利便性や誰にでも分かりやすく使いやすい公共交通の確保など、市民の日常生活の質の向上を図る必要があります。
- また、東日本大震災など度重なる災害の教訓を踏まえ、災害に強い安全・安心な都市づくりが必要になっています。
- 福岡都市圏は、豊かな自然環境に囲まれる中、利便性の高い都市交通ネットワークのもと、福岡市都心部を中心に市域を越えた一体的な都市空間を形成しています。

【めざす姿】

- 海や山に囲まれた地形的な特徴を生かし、都心部を中心に、まとまりのある空間的にコンパクトな市街地が形成され、都市的魅力と豊かな自然環境が調和し、安全・安心な暮らしのもと、市民が日常的にそれを享受しています。
- 福岡市の成長のエンジンである都心部を中心に、都市の成長を推進する活力創造拠点や、市民生活の核となる東部・南部・西部の広域拠点、地域拠点などに、拠点の特性に応じて多様な都市機能が集積し、市民活動の場が提供され、交通基盤のネットワークにより移動の円滑性が確保された「**福岡型のコンパクトな都市**」が実現しています。

福岡市における「コンパクト」な都市の概念



2 都市づくりの基本方向と取組みの基本的な方針

交流

基本方向1 九州・アジアの交流拠点都市の形成

人流・物流を支える博多港、福岡空港、博多駅と高速道路などの広域交通ネットワークの連携強化など、九州・アジアの玄関口にふさわしい機能強化を図るとともに、アイランドシティや九州大学伊都キャンパスとその周辺、シーサイドももちの活力創造拠点などにおいて産業・研究開発機能の集積を図ります。

取組みの基本的な方針

- 九州・アジアにおける交流拠点の形成に向けた人流機能の強化
- 物流を支える広域交通ネットワークの強化
- 活力創造拠点などへの産業・研究開発機能の集積とアクセス性の向上



▲クルーズ客船



▲九州新幹線



▲福岡空港国際線ターミナル

活力

基本方向2 都市の活力を牽引する都心部の機能強化

福岡市を牽引する都心部の活力の強化や魅力の向上を図るため、市民・企業・行政などの多様な主体が連携し、都心部の機能強化や質の高い空間づくりに努めるとともに、都心部の活力を支える交通環境の改善や回遊性の向上を図ります。

取組みの基本的な方針

- 都心部の機能強化と魅力づくり
- 都心部の活力を支える交通環境の改善
- 都心部の回遊性の向上
- 多様な主体との共働によるまちづくりの推進



▲天神



▲博多駅



▲博多ふ頭・中央ふ頭

活用

基本方向3 都市基盤を活用した地域の核となる拠点機能の強化

これまでと同様に、土地利用規制の適切な運用により、むやみな市街地の拡大を抑制しつつ、これまでに蓄積された都市基盤のストックを最大限に活用し、各拠点において、その特性に応じた都市機能の誘導を図るとともに、公共交通を主軸とした交通体系づくりを進め、都市構造の骨格となる拠点機能の強化・連携を図ります。

取組みの基本的な方針

- 主要な拠点への適切な機能集積と強化
- 公共交通の機能強化と維持
- 拠点間交通基盤の強化



▲ 姪浜



▲ (仮称) 香椎副都心公共施設



▲ 平成外環通りを活用したバス路線

快適

基本方向4 高齢者をはじめ、すべての人が快適で住みやすい日常生活圏の形成

子どもから高齢者までのすべての人が快適で住みやすい都市をめざして、地域の特性に応じた良好な住環境や景観づくりに取り組むとともに、地域の生活を支える交通環境の向上を図ります。また、地域主体のまちづくりに対して積極的な支援を行います。

取組みの基本的な方針

- 少子高齢化に対応した都市づくり
- 地域の特性に応じた住環境・景観づくり
- 地域主体のまちづくりの積極的な取組み支援



▲ アイランドシティ



▲ バス運行社会実験



▲ 地域まちづくり手引書

環境

基本方向5 環境負荷の少ない都市空間の形成

福岡市の恵まれた自然環境を保全し、緑の創出に努めるとともに、省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの導入、公共交通機関の利用促進などにより、環境負荷の少ない持続可能なまちづくりを進めます。

取組みの基本的な方針

- 自然環境の保全及び緑地の創出
- 地球に優しい交通環境の整備
- 低炭素型のまちへの転換



▲アイランドシティ中央公園



▲地下鉄七隈線



▲大原メガソーラー発電所

安全

基本方向6 災害に強く安全な都市空間の形成

道路、上下水道、河川などの都市基盤の整備をはじめとして、ハード・ソフトの両面から災害に強いまちづくりを進めます。また、施設の計画的かつ効率的な維持管理・更新に取り組み、安全な都市空間の形成を図ります。

取組みの基本的な方針

- 災害に強い都市基盤づくり
- 安全な建物への更新
- 安全な避難場所・避難路の確保
- アセットマネジメントの推進



▲福岡県西方沖地震による被害(玄界島)



▲集中豪雨による浸水被害(御笠川)



▲浸水対策(春吉3号幹線)







3 将来の都市構造

都市づくりの基本理念及び都市づくりの基本方向に基づいた都市計画関連施策の展開を図るために、都市構造の構成とその将来像を示します。



ここでは、将来の都市構造として、第9次福岡市基本計画における空間構成目標のうち、「都市空間構想図」を示します。

■主要な拠点

主要な拠点は、「都市の成長」と「生活の質の高さ」を両立させ、両者の好循環を図るため、都市活動や市民生活にとって重要な拠点となる地区です。






拠 点	将来像
 都心部	○都市活力の中心及び国際交流のゲートウェイとして、国際競争力を備えた、商業・業務、コンベンション、文化、港湾などの高度な都市機能、広域交通機能が集積した地区
 東部・南部・西部の広域拠点	○交通結節機能の高さを生かし、都市活力を担いつつ、行政区・市域を越えた広範な生活圏域の中心として、商業・業務機能やサービス機能など諸機能が集積した地区
 地域拠点	○区やそれに準ずる生活圏域の中心として、日常生活に必要な商業機能やサービス機能など諸機能が集積した地区
 活力創造拠点	○都市の成長を推進する高度な都市機能が集積した地区 ○「アイランドシティ」は、環境と共生し、快適な居住環境や新しい産業集積拠点を形成する先進的モデル都市づくりを進めるとともに、アジア・世界とつながる最先端のコンテナターミナルと一体となった国際物流拠点の形成を図る地区 ○「九州大学伊都キャンパス」及びその周辺は、糸島半島を圏域とする九州大学学術研究都市の核として、学生や研究者などが、新たな知を創造し、発信する、研究開発拠点の形成を図る地区 ○「シーサイドももち」は、福岡市のリーディング産業である情報関連産業などの拠点形成を図る地区
 機能を充実・転換する地区	○「舞鶴公園・大濠公園地区」は、緑と歴史・文化が調和した魅力ある空間づくりを行い、集客・交流を強化する地区 ○「九州大学箱崎キャンパス地区」は、市街地内の貴重な大規模活用可能地として、大学の移転進捗を踏まえ、新たな都市機能の導入などを検討する地区
 拠点連携地域	○拠点間の連携を図りながら、一体的な拠点地域の形成を図る地区

■主要な軸

軸	将来像
 都市軸 (放射軸、環状軸)	○都市軸は、福岡市の骨格となる重要な交通ネットワークを受け持つ道路であるとともに、都市活動や市民生活を営む上で必要な機能が連続する沿道の市街地を示します。また、市内の各拠点の機能分担や連携を図るために重要な軸です。 ○「放射軸」は福岡市と周辺都市などを放射状に結ぶ軸 ○「環状軸」は中心市街地を取り巻き、東部、南部、西部の連携を強化する軸
 交流軸	○福岡都市圏や九州・西日本への都市間交流を図るY字型都市軸とともに、アジア・世界へ向けた国際交流の主要な骨格となる軸









■緑の骨格

緑の骨格は、福岡らしい風景をつくるほか環境保全や市民の憩いの場としても大きな役割を果たしています。

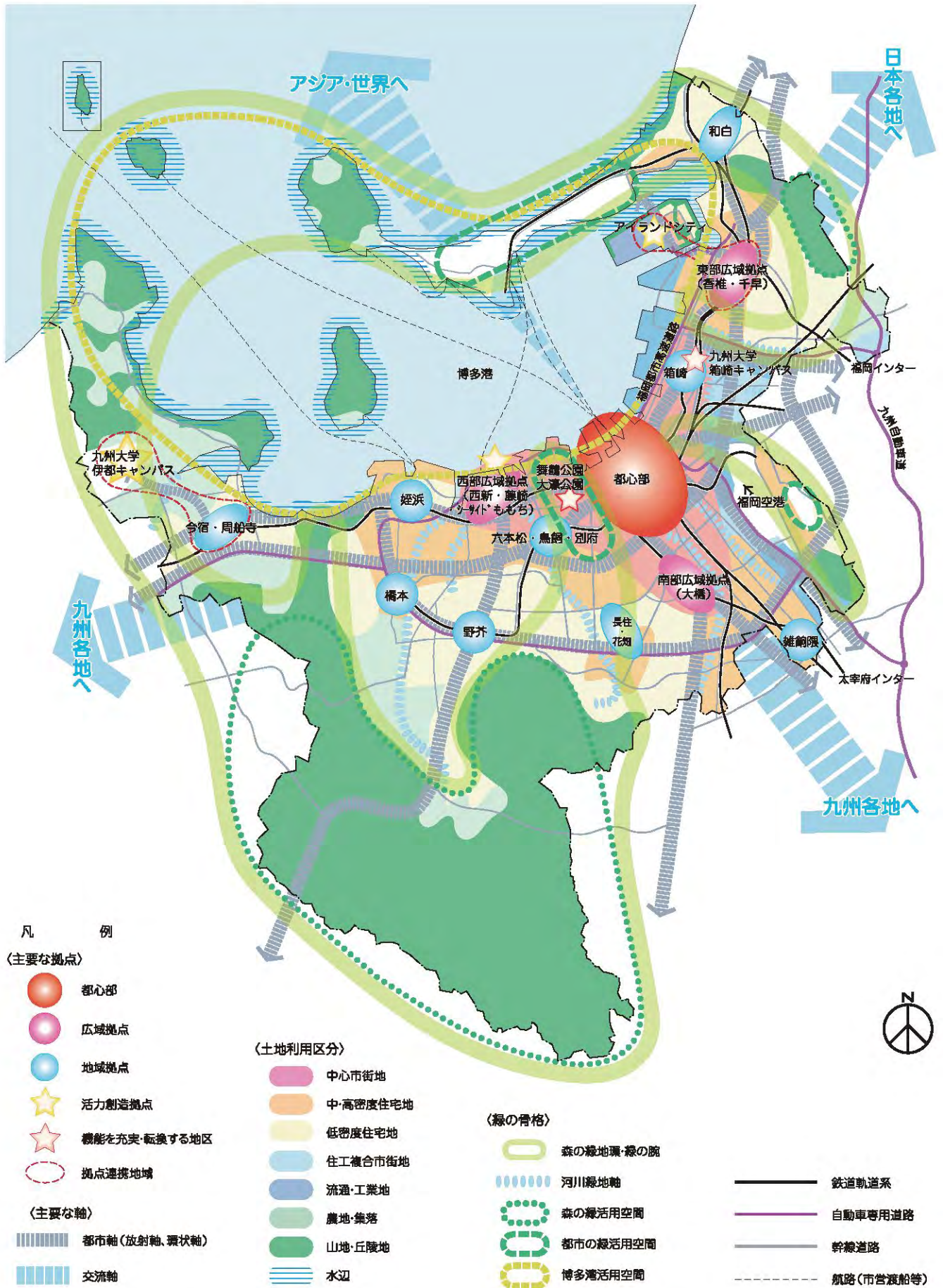
ゾーン	将来像
 森の緑地環・ 緑の腕	○市街地と博多湾を環状に囲む森林で構成される森の緑地環と、そこから市街地に伸びる丘陵地の樹林や大規模公園で構成される緑の腕により、緑の骨格を形成し、快適な都市環境や美しい都市の景観形成の軸となる地域
 河川緑地軸	○市街地を貫流する主要な河川と河川沿いの緑で構成される美しい都市の景観形成の軸
 森の緑 活用空間	○山や森林などの自然を活用し、市民が身近に自然とふれあい楽しめる空間
 都市の緑 活用空間	○都市の中の貴重な緑を活用し、スポーツやレクリエーションなどを通じて市民や来街者が集い憩える空間
 博多湾 活用空間	○自然海岸や干潟などにより海側の緑の骨格を形成するとともに、人流・物流や、スポーツ・レクリエーション・歴史・水産業などの多様な場として活用する空間

■土地利用区分

地域特性に応じて市域を大きく8つのゾーンにまとめて示します。福岡市の中心である都心部に近いほど多様な都市機能の密度が高く、遠いほど密度が低く豊かな自然環境が身近に感じられるようなゾーン配置としています。

ゾーン	将来像
 中心市街地	○都心部、東部・南部・西部の広域拠点に補完する諸機能をもつゾーン
 中・高密度 住宅地	○中心市街地の外側に広がる中高層住宅を主とし、低層住宅も共存する住宅地
 低密度 住宅地	○中・高密度住宅地の外側に位置する戸建住宅を主とし、豊かな緑に包まれ、身近に自然が楽しめるゆとりのある住宅地
 住工複合 市街地	○空港西側や幹線道路沿いに位置する住宅、流通・工業施設、商業・業務施設など、住む場所と働く場所が複合した市街地
 流通・工業地	○空港周辺や博多港などに位置する流通施設や工場からなるゾーンで、生産・物流機能を担う地域
 農地・集落	○農林水産業の振興を図るとともに、緑地空間の保全など、自然や歴史的資源を生かした地域づくりを図るゾーン
 山地・丘陵地	○市域を取り囲む山や森林などにより緑の骨格が構成され、緑の保全を進めていく地域
 水辺	○自然海岸や豊かな干潟環境を保全するとともに、市民が身近にふれあい憩えるゾーン

【将来の都市構造図】



1 都市計画マスタープランの位置づけと役割

2 都市の現状と都市づくりの課題

3 全体構想

4 区別構想

5 地域別構想と都心部